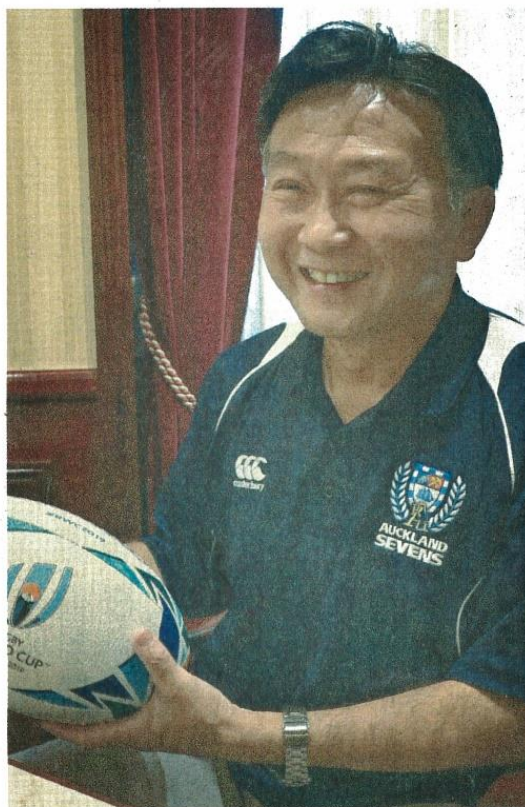


命救うチームワーク

ラグビーに衝撃を受けたのは、1972年に全国大学選手権で早稲田と法政の試合をテレビで見たときです。格闘技のようで、チームワークや知力も求められると夢中になりました。

中高一貫校で、高校ではラグビー部に入ろうと思いい、中学3年の春休みに練習を見学しましたが、部員が少なく廃部寸前でしたが、柔道やサッカー部などの友人15人をかき集めて入部しました。ただ、先輩は1、2人で指導者もいない。自分たちで話し合って練習メニューを決め、大学生の試合を見て研究しました。寄せ集めなので負けてばかりでしたが、全員で補って一歩でも前に進もうと誓いました。3年になると中堅高校にも勝て



るようになりました。

東京都大田区生まれで実家は開業医です。自然と医者を目指し、

医療法人
横浜柏堤会理事長

横川秀男さん 62

昭和大学医学部に進学。81年、外科に配属され、5年後に心臓外科に進みました。手術は人工

大学時代は勉強そっちのけでラグビーに夢中でしたね。この写真は5年生の時、関東圏の医歯薬リーグ2部で優勝し、入れ替え戦で勝って1部に上がった時に撮影しました。両親が試合を見に来てくれ、恥ずかしさもありましたが、せっかくなので一緒に撮りました。キャプテンとして臨んだ集大成の試合だったので、2人に最高のプレーを見せられたのはうれしかったですね。

集大成両親に贈る



心肺を扱う人や麻酔をかける人がいます。人命を救うため、チームワークが大切なのはラグ

ビーと同じです。

93年、義父が創設した戸田中央医科グループ(埼玉県)傘下の横浜柏堤会(横浜市戸塚区)で、戸塚区内の病院の再建を任されると、薬学など様々な専門分野を学んだ中学から大学までの仲間が協力してくれました。再建にめどがつかず、自分の人生に強く影響を与えたラグビーを広めたいと思うようになりました。

看護師ら女性が多いので、日体大の女子ラグビー部員に声をかけ、2011年に女子のチーム「横浜TKM」を作りました。同僚を応援することで団結力が高まり、仕事への活力もわく。女子ラグビーの普及にもつながると思いました。市が企画するラグビーの普及イベントにも参加しています。

つらいことを乗り越えた仲間にも恵まれ、社会に出ても助けてもらいました。ラグビーは私の一生の財産です。

(聞き手・谷口剣太)